

東濃社会教育だより

-公民館編-



恵那県事務所
振興防災課 振興係
社会教育担当:岩島
〒509-7203
恵那市長島町正家後田 1067-71
TEL:0573-26-1111 内線 208

はじめに… 昨年度より発行を始めた『東濃社会教育だより』を今年度も継続します。公民館、社会教育委員、子ども会、ジュニアリーダー、地域学校協働活動等の活動状況や係る子どもの様子・思いや取組のよさを広げ、共有することで、自市に活かしていくためのたよりです。

そこで、各市における誇れる活動、新たな活動、広めたい取組等がありましたら、是非情報をお寄せください。各担当者の元へ直接取材に伺います。

東濃地区の社会教育・生涯学習の発展の一助となれたら幸いです。よろしくお願ひします。

やさか公民館連合会（中津川市）

～今回のピックアップ公民館～

今回のピックアップ公民館は、多治見市笠原中央公民館、瑞浪市大湫公民館に続いて3館目となる中津川市やさか公民館連合会を紹介します。や(山口) さ(坂下) か(川上)、3つの公民館が連携・協働して行った取組です。また『やさか』として、観光協会、青少年健全育成、スポーツクラブ等、様々な分野において一体となった活動が行われています。

今回、『やさか公民館連合会』が中心となって行った『夏休み やさか子ども祭り』の取材のため、坂下公民館へ訪問し、原 一敏 館長から子どもまつりの経緯、昨年度の様子、将来に向けての願ひ等のお話を伺いました。

連合会としての運営と小・中学生の参画



以前のたよりも掲載しましたが、東濃地区で中学生が地域行事にボランティア参加している公民館は9割を超えます。ただ、中学生が企画・運営に携わっている『参画型』となると、4割程度であるのが現状です。

地域行事に学校が主体的に係る『参画型』のように、学校と地域の連携・協働については、今年度以降もコミュニティ・スクールや放課後子ども総合プラン推進事業、土曜日の教育支援体制構築事業等の地域学校協働活動推進事業が拡充の方向にあることから、より重要度が増していきます。

このような国の動きがある一方、人口減少、超高齢社会、若者の減少といった厳しい現実に直面しているのも周知のとおりです。

こうした状況であるからこそ、厳しい現実に立ち向かい、具体的な手立てを講じていく動きが必要となります。

そこで、2005年、長野県木曾郡山口村の中津川市への越県合併を契機として、山口・坂下・川上の3つの公民館が連合会という組織を作り、一緒になって、乳幼児学級、合同講座、わくわく体験クラブ等、様々な公民館活動を行っています。『夏休み やさか子ども祭り』もその1つです。**合併して1つの中学校へ進学することになった「やさか」の子どもたちのために、「やさか」の公民館が連合して取り組んだ**、という先駆的な好例であると言えます。

また、『やさか公民館連合会』は、地区青少年健全育成推進市民会議とタイアップして、『参画型』のバックアップ体制を確立しています。その中でも大きな特長は、**小学4年生から**中学生までをスタッフとして入れていることです。在籍数等の事情もあるでしょうが、小学生から行事の企画・運営に携わる体験をしていく、ということは中学生になってから更に地域に対する思いが膨らみ、より地域を身近に感じるということが期待できます。

— 以下、『夏休み やさか子ども祭り』の具体について紹介します。 —

テーマ『子どもが主人公の夏祭り』 — 『やさか子ども祭り』 —

① ねらい

青少年の健全育成のためには、大人からの働きかけや青少年を取り巻く環境の改善のみならず、青少年自身の自覚と行動が必要である。そこで平成26年度から、これまで「お客様」であった子どもたちに参画意識をもたせ、自分たちが主人公となって取り組めるように開催することとした。

② 取組内容(経過) 平成28年度の実践より

4月26日 やさか地域公民館担当者打ち合わせ会
(概要・日程決定)

6月中旬 チラン作製・配付(スタッフ募集も含む)
坂下小・中学校長へ依頼

7月21日 **第1回スタッフ会議**
(出店計画と担当者決め、ポスター作製、
次回スタッフ会議の確認)

小学生スタッフ 16名

中学生スタッフ 3名

7月26日 **第2回スタッフ会議**
(子ども祭りの概要把握、遊び・ゲームの
内容、ルール等の相談・確認、遊び道具
作製)

7月30日 午前 会場設営、出店準備
午後 **夏休み やさか子ども祭り開催**
13:00~15:00

③ 子どもたちが運営した店

- ・的当て ・空き缶ボーリング・輪投げ ・魚釣り
- ・段ボール迷路 ・押しくじ ・水風船釣り・スーパーボールすくい ・トントン相撲 ・ヒモ引き

④ スタッフとして参加した子どもの思い

◇保育園の子や小学生、その保護者が「ありがとう。」

「おもしろかったよ。」と言ってきて、疲れたけど、
やってよかったと思いました。

◇この夏祭りでたくさんの人に楽しんでもらえたと思
ったのでよかったです。もし、来年もスタッフがで
きたら、またやりたいです。

◇準備などがつらく、当日も一気にお客さんが来たとき
は本当に大変でした。でも、やりきった満足感で
いっぱいでした。



【スタッフ会議】



【子ども祭り一景】

坂下公民館 原館長さんの話

○子どもたちの自主性・可能性に期待し、より早い段階からスタッフ募集を行った。その結果、出店内容に昨年度とは違った店が現れ、子どもたちも積極的に取り組めた。また、多数の来場者があり、子どもたちの活動に弾みがあった。

○今年度初めて中学生のスタッフ参加が3名あり、斬新なアイデアや特技を発揮して活動をリードしてくれた。(部活等で忙しいであろうが、もっと早い段階から取り組み、中学生に加わってほしい。)

○ふるさと「やさか」に対する思いを強くしてほしい。

石川啄木 歌集『一握の砂』より

ふるさとの山に向ひていふことなし

ふるさとはありがたきかな

たとえいつか地元を離れても、体験したことでふるさとを思い出してほしい。幾つになっても、ふるさとを思い出し、生かしていくことが大切。

子どもたちを実行委員会のメンバーとして、ともに企画・運営することは、大人だけでやるよりも当然、手間暇を要します。しかし、少子化・過疎化という現実から、行事を活性化し、地域の将来を見据えるという観点で捉えれば、子どもの参画は必要になってきています。その実現のためには、原館長さんの「ふるさとに対する思いを強くしてほしい。」といったような地域の子どもの強い願い、子どもに任せる部分をつくる大人の覚悟があってこそ成立しているのだと言えます。



【どのブースも盛況で笑顔に溢れています】